

伝説の湖に現れた幻の風景

～田沢湖北岸、わずか 2.3km 先に蜃気楼が～

北海道・東北蜃気楼研究会
星 弘之

1. はじめに

殆どの蜃気楼観測者は海を見ている、内陸の湖で蜃気楼を観測しているところは琵琶湖と猪苗代湖だけである。「琵琶湖で出るなら猪苗代湖でも」といった単純な発想から、観測を始め最初に最も大きな蜃気楼に出会ってしまった。

猪苗代湖で出るなら「十和田湖」「田沢湖」でもと思い観測を始め、神秘と伝説の湖でまたしても出会ってしまった。

下位蜃気楼が出るところは上位蜃気楼も出ると思って、何の根拠もないところから新しい蜃気楼発生地を探し続けている。

魚津のランクでいう「E」ランクの蜃気楼を2013年に田沢湖で観測・撮影した。より大きな変化をする蜃気楼を求め再度観測・撮影に挑んだ様子を発表するとともに、発生の可能性がある北海道の2つの湖を現地調査した様子を併せて発表する。

2. 田沢湖の概要

秋田県中東部に位置

- ・直径約 6km の円形
- ・面積 26 km²
- ・周囲 20km
- ・標高 249m
- ・周囲の山約 400m～750m
お盆状



盛岡から約 45 km 約 1 時間

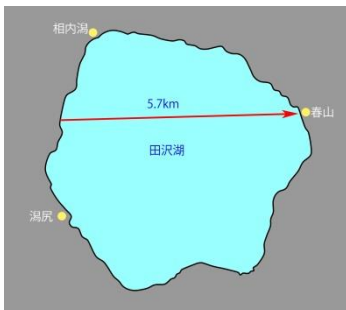
3. 田沢湖観測経過

2012年5月23日、24日に現地調査（悪天候）

2013年5月26日に田沢湖で微少な蜃気楼の発生を確認→大きな蜃気楼の発生を予感

2015年5月24日に広範囲に蜃気楼を確認→2.3kmの距離でも蜃気楼化

4. 2013年の発生状況



2013年5月26日田沢湖の東岸より秋田駒ヶ岳を望む西岸方向の観測を開始、10:20頃から10:35頃までの間、遊覧船の発着場やスワンボートが陸揚げされている春山地区に微少な変化を捉えた。しかしながらこれ以上の変化は起こらず僅か15分程度で収束してしまった。最大で直径6kmしかない小さな湖ではこの程度の変化しかしないのかと疑問がまた一つ増えた。

5. 2015年の発生状況

2015年5月に再度田沢湖を訪れる機会があり、高さによる蜃気楼の変化を見ることが出来る春山地区を観測地にした。

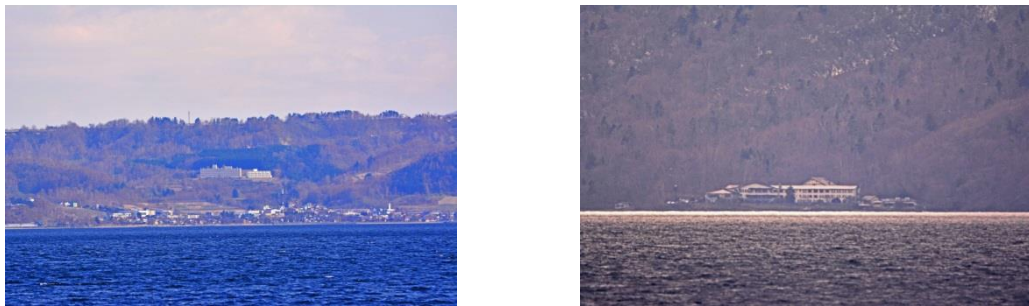
5月24日、田沢湖に到着すると快晴で無風、湖面も波立ってなくゆっくりとしたうねりで蜃気楼の発生を予感させる状況であった。



この日は湯尻、相内湖、姫観音方向に蜃気楼の発生を確認できた、相内湖をインターバル撮影した画像を見ると9:40頃~10:00頃までの間変化を続けていた。フィールドスコopで対岸を湯尻から姫観音方向へ見ていると姫観音の手前の岸が蜃気楼化しているのを発見、収束後距離を調べると僅か2.3kmと過去最短距離の蜃気楼の発生であった。

6. 洞爺湖、支笏湖の現場調査

猪苗代湖、十和田湖、田沢湖と3湖で蜃気楼を観測できたが、北海道の洞爺湖、支笏湖でも地形や距離的に発生の可能性があるので、現地調査をすることにした。



洞爺湖（左）では観測地として洞爺湖温泉の湖岸にある公園から北側対岸を観測するのが最も良い。建物があり距離も8.8km程度、十分に発生を予感させる状況だった。支笏湖（右）では丸駒温泉を正面に望む所からは距離8kmと十分だが駐車場の問題と丸駒温泉の建物しか無いためあまり良い条件では無かった。

7. まとめ

通常、蜃気楼の発生地では対象物までの距離が短いところで7km程度である。それよりも短く僅か2.3kmの距離で観測できた事により、2013年から観測をしている直径約5kmの諏訪湖でも、距離的には十分発生のあることが分かった。今後、いままでに思っていたより小さな湖でも蜃気楼と出会える可能性が増した。今までに無い変化をする蜃気楼と出会えるかもしれないという期待で、夢が大きく膨らんだ。